



心を合わせて
みんなの笑顔
未来につなぐ

開町120年。
次世代が笑顔で過ごせる
まちづくりを目指して。

北海道の原野を開拓した先人が興した
本別町には、人々のたゆまない努力と忍耐、
そして誇りが確実に息づいています。
人にやさしいまち、福祉のまちとして
力を注いできた歴史を踏まえ、
また一歩、新たなステージへ向けて
さらなる飛躍を目指します。
本町がめざす将来像として、
健康的、文化的な生活を
当たり前に堅持していくとともに、
環境に配慮した取り組みを通じて、
将来の世代が永続して営みを維持できる
社会を確立し、誰もが笑顔で、
温かい気持ちをもって過ごすことのできる
まちづくりを力強く推進していきます。

Working together to build a happier future for all!

120 Years of Honbetsu.
Building a community for the happiness of future generations.

The town of Honbetsu was founded by pioneers who settled the wilderness of Hokkaido, and has inherited their tireless spirit, perseverance, and pride. Now, as we step into the future, we will remain a city that values its citizens and their welfare. The future we envision values healthy, culturally fulfilled lifestyles for all. The community building and urban planning we aim for will build a society that allows future generations to live on in comfort, happiness, and warmth through environmentally friendly initiatives.

HISTORY OF HONBETSU: 2011-2021

- 2011年(平成23年) ●東日本大震災被災地宮城県南三陸町へ町職員派遣
●第6次町総合計画スタート(2011~2020)
基本理念「ともに学び 支えあい 活力あるまちづくり」
●OCTVほんべつエリア開局
●開町110年記念式典開催
- 2012年(平成24年) ●美里別へき地保育所開所
●農産物ものづくり館「ゲンキッチン」オープン
- 2013年(平成25年) ●白糠町と包括交流連携協定締結
●第1回ほんべつ肉まつり開催
●太陽の丘などにメガソーラー発電施設建設
- 2014年(平成26年) ●仙美里中学校閉校
●学校給食共同調理場竣工
- 2015年(平成27年) ●第1回ほんべつ豆まかナイト開催
●太陽の丘野球場オープン

- 2016年(平成28年) ●とから広域消防局スタート
●4つの台風が北海道に上陸・接近。町内施設が甚大な被害を受ける
●第20回本別きらめきタウンフェスティバル開催
- 2017年(平成29年) ●中央保育所、南保育所開所。本別カトリック幼稚園閉園
●認定こども園ほんべつ(学校法人鉦路カトリック学園)オープン
- 2018年(平成30年) ●勇足地区(小・中学校)にコミュニティ・スクール導入
●北海道胆振東部地震発生の影響で全道的な大規模停電発生
●本別町国民健康保険病院で地域連携室開設
- 2019年(令和元年) ●しごと体験交流館(旧南保育所)オープン
●本別・仙美里地区(小・中学校)コミュニティ・スクール導入
- 2020年(令和2年) ●十勝管内初の新型コロナウイルス感染症の感染者発生により
本別町新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
●仙美里へき地保育所開所
- 2021年(令和3年) ●本別町国民健康保険病院で地域包括ケア病床を導入

2021
町勢要覧
HONBETSU GUIDE

本別町 町勢要覧

2021年9月発行
本別町企画振興課
〒089-3392 北海道中川郡本別町北2丁目4番地1

T E L 0156-22-2141
H P https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/
印刷 本別印刷株式会社
デザイン 株式会社プロコム北海道





HONBETSU EVENT



ほんべつ豆まかナイト 道の駅「ステラ★ほんべつ」冬あかり 本別山溪つつじ祭り 樽生ビア一彩 十勝ほんべつひまわり迷路 ほんべつ夏祭り事業・盆踊り ほんべつ肉まつり 本別きらめきタウンフェスティバル

HONBETSU OVERVIEW

本別町の概要



Profile

本別町は北海道・十勝の東北部に位置する町です。総面積は391.91平方キロメートルで半分以上が山林でおおわれ、利別川が町の中心を穏やかに流れる美しい自然と豊かな緑の中で、6,624人(令和2年国勢調査速報値)が暮らしています。十勝特有の大陸性気候で、夏と冬の寒暖差が大きく、一年を通じて降水量が比較的少ないのが特徴です。かつては林業が盛んでしたが、現在の産業の中核は農業と工業で、特に地場産品の加工を行う工場が発展しています。

町の中心部を通る国道242号線には、道東自動車道本別IC・JCTを有し、釧路方面や札幌などの道央・道東圏を結ぶ交通や流通の拠点となっています。近年は、本別公園や道の駅を核とした観光の振興をはじめ、まちぐるみで支え合いの仕組みとして、地域包括ケアシステムの構築にも力を入れています。

Honbetsu town is in the northeast of Tokachi, Hokkaido. It covers 391.91 square kilometers, more than half of which is natural forests and hills. The gentle Toshibetsu river flows through the heart of town, nourishing natural scenery that is home to 6,624 people (according to the 2020 census). Tokachi's continental climate means that summer and winter have a major temperature differential, with low precipitation year-round. The local economy was once based on forestry, but today agriculture and manufacturing are key, particularly in industries based on processing local produce.

National Route 242 runs through town and connects to the East Hokkaido Expressway at the Honbetsu Interchange & Junction, making this area a hub for transportation and distribution for central and eastern Hokkaido, including Kushiro and Sapporo. The city has recently begun promoting tourism through Honbetsu Park and Michi no Eki Roadside Station, as well as building a comprehensive community care system to encourage city-wide mutual support.

町名の由来 アイヌ語のボン・ベツ(小さい川)を語源とし、本別市街地で利別川と合流する本別川から名付けられました。

町章 本別の「本」を中央に、また「別」の字を円形に圖案化しています。

Symbol

- 町の花** エゾムラサキツツジ
Town flower "Ezo Purple Rhododendron"
- 町の木** カシワ
Town tree "Oak"
- 町の鳥** アカゲラ
Town bird "Great spotted woodpecker"
- 町のキャラクター** 元気くん
Town character "Genki kun"

Exchange

- 姉妹都市** オーストラリア・ミッチェル
Sister cities "Mitchell, Australia"
- 友好都市** 徳島県 小松島市
Friendship cities "Komatsushima, Tokushima Prefecture"
- 相互交流** 宮城県 南三陸町
Mutual exchange "Minami Sanriku, Miyagi Prefecture"

はたらく

働きやすく、豊かな経済を育むまちへ。



農業 - Agriculture -

農業は本別町の基幹産業であり、肥沃な大地と恵まれた気候の中、広大な土地を生かした畑作・畜産が営まれています。豆、小麦、テンサイ、パレイショ、デントコーンを中心に玉ネギ、スイートコーンなども生産される畑作と、酪農や乳牛・肉用牛を育成する畜産が盛んに行われ、食料基地として良質で安全・安心な食材を全国に届けています。

地域経済を支える産業として、農畜産物の安定供給と経営の安定強化を図るため、農地の基盤整備やスマート農業の導入、農副産物を利用した循環型農業の形成など、農業の活性化へ向けた取り組みの推進に努めています。

また、後継者または移住者などの新規就農者支援、農業実習生や就労者の受け入れの推進など、担い手確保のためのさまざまな施策を進めています。

Agriculture is the economic foundation for Honbetsu, with its wide, fertile land and moderate climate nourishing both crops and livestock. Main crops include beans, wheat, sugar beets, potatoes, and dent corn, with some fields of onions and sweet corn as well. Livestock farming includes thriving dairy and beef cattle farms.

Since agriculture is essential to the local economy, we are intent on revitalizing that segment, including through farmland infrastructure development, smart agriculture support, and a system of recycling-oriented agriculture with by-product reuse, all to ensure agricultural supply and management stability.

In addition, we support new farmers, including successors and newcomers, and encourage farms to accept agricultural trainees and employees.



INTERVIEW
本別町ではたらく人

新規就農者
あらい ようすけ
荒井 陽介 さん

自然も人も豊かなところが本別町の魅力です。

鳥取県から移住し、第三者継承の形で新規就農しました。現在は小豆や金時、小麦、デントコーン、テンサイなどを育てています。

本別町は小さい町ですが、それゆえに町民同士のつながりは強いように思えます。外からやってきた自分にも、土や肥料のことなど、周囲の方はいつも親身になって教えてくれます。後継者不足などよく耳にしますが、本別町は自然風土に恵まれているので、自分のように新しく農業を始める方や若くして継がれる方がこの先増えればいいと思っています。

2人の子どもはそれぞれ小学校とこども園に通っています。人数が少ない分、先生たちの目が行き届いているように思いますし、子供たち同士も学年に関係なく交流していたり、上級生が下級生を見守るなどの様子も伺えて安心です。景色もいいですし、暮らしの面でも気に入っていますね。



はぐくむ

子どもも大人も、いつまでも健康なまちへ。



子育て支援 - Childrearing Support -

平成29年に市街地区の保育所と幼稚園を統合した幼保連携型認定こども園ほんべつ(学校法人鉦路カトリック学園運営)が整備され、幼児期において質の高い教育・保育の提供を図るとともに、幼児教育・保育の無償化に合わせ、独自に給食の完全無償化を行っています。また、同園に併設する子育て支援センターや療育を行う児童発達支援センター、町内3学区に学童保育所を設置するなど、子育て環境の充実に努めています。

健康管理センターでは、妊娠、出産後、子育てまでの切れ目ない支援を行うため、幼児期における各種健診および保健指導に努めているほか、同センター内に子育て世代包括支援センターを開設し、各関係機関と連携しながら気軽に相談しやすい環境を構築しています。

出生から高等学校卒業まで医療費の助成を行うなど、子育て世代の負担軽減施策を進め、安心して産み育てることのできるまちを目指しています。

In 2017, Honbetsu consolidated local district nursery schools and kindergartens into the childcare center Kodomoen Honbetsu (managed by Educational Corporation Kushiro Catholic Academy) to provide high quality early childhood education and childcare. The city also provides free school lunches and free early childhood education and care. In addition, we work to improve the childrearing environment with a child-rearing support center at Kodomoen Honbetsu, a child development support and rehabilitation center, and after-school care centers in three school districts.

The health management center offers seamless support through pregnancy, post-birth, and into childrearing, with early childhood health checkups and guidance, and by cooperating with related organizations it has established a comprehensive support center for people of childrearing age as a place where people can easily seek advice. We hope to reduce burdens on parents, as well, with measures like subsidized medical care from birth to high school graduation, in hopes of becoming a city where people can raise families with peace of mind.



INTERVIEW
本別町ではぐくむ人

主婦
にいっ あやか
新津 彩花 さん

町の人と制度が毎日を支えてくれる。

生まれは浦幌町ですが、結婚を機に本別町に移住しました。今は3人の子どもを育てながら、パートタイムで道の駅の売店に勤務しています。

家を建ててからは、近所の人との交流が多いです。大根をいただいたり、子どもが自転車に乗るのを見守ってくれたり、とても助かっています。町に大きなショッピングセンターはありませんが、スーパーや100円ショップなど買い物する場所が近くにあるので「住みにくい」と感じたことは特にありません。服飾品や雑貨などは、帯広や釧路に行ったときに買えますね。

自然や公園も多く、町内の少年団やイベントも充実しているので子育てする立場としては、居心地よく思っています。また、18歳までの医療費無料や3人目の保育料無料など、子育てのための制度も豊富にあるところも気に入っています。



地域福祉・医療 - Community Welfare and Medical Care -

平成12年に本別町国民健康保険病院、総合ケアセンター、介護老人保健施設が「太陽の丘」に整備され、本町の地域福祉・医療の拠点として発展してきました。

地域福祉では、平成18年に地域全体で福祉を推進するために「福祉でまちづくり」を宣言し、町民同士の助け合い、支え合いの活動を基本に、町民のニーズに合わせた生活支援を行うためのさまざまなサービス提供に取り組んでいます。

医療では、高度な医療機器を備えた国保病院が地域医療の中心となり、地域包括ケアの実現のために介護・保健・福祉部門・他医療機関との連携を深め、最後まで自分らしく暮らせる地域の実現に向けた取り組みを進めています。

今後も、全ての町民が住み慣れたこの地域で、健康で安心して暮らし続けられるよう地域福祉、医療の支援体制を維持し、住み続けたいと思えるまちの実現を目指していきます。

Honbetsu established Taiyo no Oka in 2000 as a hub for community health and welfare, and it incorporates the Honbetsu National Health Insurance Hospital, comprehensive care center, and geriatric healthcare center. In 2006, the town declared a goal of Community Building for Welfare to promote its aims. Now, we work to provide diverse services to support townspeople's lives by filling a diverse range of health and welfare needs.

Community medical care centers on the National Health Insurance Hospital and its advanced medical equipment. The hospital offers comprehensive community medical care through cooperation with the nursing care, health care, and welfare sectors, and with other medical institutions. Its goal is a community where people can live free, fulfilling lives to the very end. Honbetsu will maintain a support system for community welfare and medical care so that all residents can be part of this community in good health and peace of mind, as well as ensure that this remains a place where people want to stay.



まなぶ

いくつになっても、発見とやりがいがあるまちへ。

教育・文化・スポーツ

- Education, Culture, and Sports -

平成19年に将来を担う子供たちのため、家庭・学校・地域・行政が手を携え教育力を高めるねらいとして「ほんべつ学びの日」を宣言し、各種事業に取り組んできました。義務教育では、一人ひとりの発達段階に応じた個性を生かした教育を進め、基礎学力および体力の向上を図るとともに、家庭・学校・地域が協力し子どもと大人が共に学ぶ活動を展開するなど相互の人間的な成長を図り、社会変化に対応した教育を推進しています。

社会教育では、町民の自主的な活動が盛んで、明るく豊かなふるさとづくりのため、生涯各期に応じた学習と連帯感を育てる事業を展開するとともに、担い手の育成や平和で豊かな地域社会づくりを推進しています。

スポーツでは、各関係団体等と連携し、健康保持や体力づくりに、誰もが、いつでも、どこでも気軽に参加できるよう生涯スポーツ活動に取り組んでいます。

The city officially established the Honbetsu Day of Learning in 2007 to encourage families, schools, communities, and the government to work together for improved educational opportunities for children, resulting in many new projects. The town promotes compulsory education that embraces each student's individuality at every stage of development, while improving academic skills and physical fitness. That education also promotes socially responsive mutual development through activities in which children and adults learn together within families, schools, and communities. We also encourage social education projects that foster learning and a sense of solidarity for every stage of life, to help raise new leaders. We hope to create a bright, prosperous community where volunteerism flourishes and people can live in peace. The town also cooperates with various organizations to provide sports opportunities that anyone can join anytime, anywhere to maintain health and build physical strength throughout their lives.



くらす

町民同士が助けあい、安心して暮らせるまちへ。

防災・交通・インフラ整備

- Disaster Prevention, Transport, and Infrastructure -

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、災害による被害を最小限に抑える環境整備をはじめ、個々が災害に対して備え、自治会等による支え合い活動の構築、行政が支援を行う「自助・共助・公助」をそれぞれの立場で理解し、実践するため、防災訓練や講習会を定期的に行っています。また、迅速で的確な消防活動に努め、救命率向上を目的とした救命講習等の普及活動を実施しています。

交通では、警察や諸団体の協力を得て交通安全教育などの啓発活動を行うとともに、町民と連携しながら防犯活動を進めているほか、町民の足を確保する町内外へのバス路線の整備など、誰もが利用しやすい公共交通体系づくりに努めています。インフラ整備では、利便性の維持・向上を図るための道路・河川、上下水道、公園、公共施設、公営住宅等、計画的な管理を行っています。

To help preserve residents' safety in their familiar neighborhoods, we use government support to hold regular disaster drills and seminars to help people understand and practice for themselves the principles of "self-help, mutual-help, and public-help," as well as developing an environment that minimizes disaster damage. We also promote individual disaster preparedness, and establish mutual-help activities within neighborhood associations. We also work to improve fast, effective firefighting, and conduct rescue training and other education to improve lifesaving rates. The town coordinates with the police and other organizations to educate residents about traffic safety and promote residential crime prevention activities. In addition, we are developing more accessible public transportation, including wider bus routes within and outside of the town to ensure that residents can get around. We have systems in place to manage roads and rivers, water and sewage systems, parks, public facilities, and public housing to maintain and improve convenience.



つなぐ

住民と行政が協働し、笑顔で過ごせるまちへ。

開かれた町政を目指して

- Towards More Government Transparency -

「心を合わせて みんなの笑顔を 未来につなぐ」をキャッチフレーズに、令和3年度から第7次本別町総合計画がスタートしました。

町民の意見をまちづくりに生かすため、これまでと同様に条例委員などの公募制、計画策定における町民参加の拡大、男女平等参画社会の形成を図り、自治会やまちづくりに携わる団体と連携し、地域の継続的な発展に向け、協働によるまちづくりを目指しています。また、効果的・効率的な自治体経営に努めるとともに、自主財源の確保を含め健全な財政運営の確立を図り、次世代にしっかりと引き継いでいくことのできる行政基盤づくりを推進していきます。

町民の代表である町議会は、行政の監視役であるとともに、まちづくりの推進役としての役割を担っており、議長との対話室や町民懇談会などの広聴活動にも積極的に取り組み、町民の負託に応じるべく活動していきます。

We launched the 7th Comprehensive Honbetsu Town Plan in 2021 under the slogan, "Working together to build a happier future for all!". We hope to implement resident requests, and so invite public participation in planning committees, etc. through an open recruitment system. We also aim for a gender-equal society, and work with residents' associations and community development organizations to achieve collaborative community building for regional development. We also strive for effective and efficient local government management, to establish sound financial management including securing local financial resources, and promote a solid administrative infrastructure that will last for generations to come. The town council, as collective representatives of the townspeople, plays a role as administration watchdog as well as urban development promoter, and actively engages in public hearing activities by offering chances at dialog with the chairperson and hosting round-table discussions with the townspeople, all to build a trusting public relationship.



INTERVIEW 本別町でつなぐ人

KOYA.lab 代表
おかざき けいた
岡崎 慶太 さん

町のみならず協力して、本別町が盛り上げれば。

家業である建設会社で常務を務める傍ら、タイニーハウスのレンタル事業(KOYA.lab)を行っています。商工会青年部の部長をしていた時に、町のイベント「豆まかナイト」を企画・開催したのですが、単発ではなく継続的な事業によって、本別町をさらに知ってもらいたいと思い、起業しました。またもう一つの理由は、町の経済を活気づけなかったから。レンタル時の食事やガス、リネンの洗濯に至るまで、町内の企業と連携して提供をしています。自分の会社だけでなく、発生する利益を少しでも町のみならず共有できればと考えています。地元意識は高いが、本別にゆかりがない人も受け入れるほどオープンな町です。連携しやすいし、新しいビジネスにもつながりやすい環境だと思います。起業に関する支援や制度もありますし、誰でも入れる住民主体の地域づくり団体もあるので、一緒に本別町を盛り上げてくれるような方が増えると嬉しいですね。

本別町の10年前と今

ふかわ農場
ふかわ りょうすけ
府川 諒祐 さん

町民だからこそわかる町の魅力について、10年前の町勢要覧で対談に参加していた府川さんにお話をお聞きしました。

この10年で変わった町の魅力と自分の役割。

10年前の対談に参加していました府川です。当時は中学3年生でしたが、現在は25才。実家の農場を継ぎ、今年で就農3年目。主に畑作と花きの栽培を行っています。また農協青年部の仙美里支部長として、地元小学校の食育授業を受け持つこともあります。

僕の思う町の魅力は、お祭りが多いところ。昔からあったイベントもあれば、この10年の間に増えたものもあります。きらめきタウンフェスティバルでは参加者として楽しんでいますし、豆まかナイトは農協青年部で実行委員として、「本別町を盛り上げよう！」という思いで参加しています。最近さらには経営面のことでも考え、将来どうしたらいいか、自分の手が回るレベルで農場を大きくしていくにはどうしたらいいかをよく考えるようになりました。今後も本別町を支える農業従事者の一人として、農場の所得を上げ、町を支えるよう頑張りたいです。

Next 10 years later...

